

## ㊦ 雪崩 山スキー一部、過去 20 年の雪崩遭遇

杉田

- ① 1998 3/11~3/23 加藤P (43222) 北日高 戸蔦別、幌尻  
面発生表層雪崩 誘発 規模小 スキー中

3/15 戸蔦別、1753 ポコの南東面

弱テすると肩。滑ると下のほうで表層が厚さ 3cm 位雪崩れる。尾根上の少し木のあるほうへ逃げが、上からきた高野 (M) がまた表層を崩し杉江 (M) が 2m ほどずり落ちる。下のほうでは表層の 3cm ほどがクラストぎみで板状になっていて、その部分が雪崩れてしまった。埋まるほどの雪崩ではなかった。

- ②☆1998 3/10~3/20 高岸P (43111) 北アルプス 立山  
面発生表層雪崩 誘発 規模中 スキー下降中

3/18 室堂ターミナルから下山中 c 2050

全装で下り始め、重い雪と格闘しながら行くが途中で小雪庇の上に出てしまう。全装スキーが不慣れでかなり体力を消耗していた石原が登り返しに苦勞していたので S L が助けに行ったところ、2 人の足元から雪崩が起きた。幅 30m、長さ 10m (下は道路でブルドーザーが除雪中) で厚さは 50~60cm。幸い 2 人とも巻きこまれずにすんだが非常に危険であった。

- ③☆1997 3/18~4/2 青山P (4322) ペテガリ~神威岳  
面発生表層雪崩 誘発 規模大 アイゼン歩行中

3/26 中ノ岳の南の J. P から神威岳の中間尾根への稜線上

c 1372 先 c 1270 に巨大な雪庇があり、ブッシュ際をギリギリ歩いていると、ポコーと音がして歩いているところから 40~50 cm の所に亀裂が入り雪庇が落ちていった。下を見ると 200m ぐらい下ですでに雪煙が舞っているのが見えた。巻き込まれたら死んでいた。

④ 1997 3/18~24 加藤P (3311) 増毛 暑寒別岳  
面発生表層雪崩 誘発 規模小 雪洞

3/21 c1075 東側雪洞地点

引き返して雪洞につくと、雪洞は吹き溜まった雪で埋まっていた。段差の斜面に入って雪洞に近づくと、段差側面が雪崩れる。幅 30m、長さ 5m位でM2 人とLが少し流される。段差の下は平らで、吹き溜まっているのは段差の側面だけのようなので大きな雪崩になる心配はなかった。雪洞を掘ったときはたいした弱層はなかったのでこの 2 日で吹き溜まった分が雪崩れたものと思われる。

⑤ 1995 5/28~6/3 小河P (22223) サマースキー  
点発生~面発生表層雪崩(湿雪) 誘発 規模中 ツボ足歩行中

5/31 ハタコロ

c1986 の手前のスロープで弱テをし(40cm に肩)、ハタコロの側面に入ってもう少しで沢中に入れるというときに表層雪崩が発生。2 番目の真下が足を滑らせ雪がずり落ち、そこからジャラジャラと表層が流れ出し、その後クラックがLの後ろまで入り、結局幅 20m、長さ 70m位で表層 15cm がズリズリと雪崩れていった。

⑥☆1995 3/22~4/4 芳賀P (4322) 北アルプス 笠ヶ岳、槍ヶ岳  
面発生表層雪崩 誘発 規模大 アイゼン歩行中  
面発生?表層雪崩 誘発? 規模小 スキー(シール?)歩行中

3/28 (1 回目) 縦沢岳の北の側面

縦沢岳は南側が落ちており、北側が吹き溜まっていた。引き返しの際、北の側面が雪崩れる。幅 20~30m、コンタ差 450m、厚さ約 40cm。山行全体を通して弱テをほとんどしていなかった。

3/30 (2回目) 新穂高温泉に向かう林道上の最後のデブリ

側面のデブリのある斜面が2度にわたり雪崩れた。幅10m位の雪崩が2回、林道まで。

⑦☆1995 3/5~3/17 千葉P (4311) 知床

面発生表層雪崩 誘発 規模小 スキー下降中

面発生表層雪崩 誘発 規模中 スキー下降中

面発生表層雪崩 誘発 規模中 スキー下降中

3/16 極楽平付近

(1回目) 羅臼アタック後、個装スキーで流氷スロープをBCへ下る。斜度はテラス位、雪は硬めで弱テはしていなかった。最後、平らなところに降りる10m位がある程度の斜面になっていてLとM1が滑り降りたときシュプールの脇が幅5~10m、厚さ10~20cmで切れてズルズルと10m程崩れた。

(2回目) 風も強く、テント撤収後すぐに出発。1回目の雪崩斜面に入らないように行ったが判断が甘かった。図のような凹状をSL先頭で全装スキーで下る。M1が後に滑り出したとき、SLの側面の上から厚さ20~30cmの板雪崩が落ちてくる。SLは数m流され、右足のスキーと右手が埋まる。M1もデブリ末端へ押しやられる。

(3回目) 先ほどの雪崩発生地点から早く離れようとSL先頭で出発。c842の岩峰の巻きでc800ライン付近をトラバース中(雪はやや硬め)、SLの上方10m位から厚さ10~20cm、幅5m位の雪板が切れ落ち、その上に乗るような形でSLが落ちる。下の方は急で加速し、1度木につかまると再度流され、その下の木にスキーを上にしてひっかかって止まる。

⑧ 1994 11/23~26 中村P (4322) II年目新人合宿 旭岳

点発生表層雪崩 誘発 規模小 スキー下降中

11/24 ピーク直下

スキーで北大スロープへ向かう。ニセ金の平らなところに行ったとき、ピーク下の急斜が雪崩

れる。片倉（他P）が雪崩の下にいたが、幸い片倉の前で雪崩は止まる。スキーで雪を切ったために、吹き溜まりの表層が雪崩れたようだ。

⑨ 1994 3/9~3/16 星野P (4311) 北々日高  
面発生表層雪崩 誘発? 規模中 スキー中

3/14 なおみ 18才

弱テ後c30位滑るが足元がややズレる感じがしたので手で再び弱テを試みようとするとうまく抜けた急斜面の部分が雪崩れ始めた。表層約20cm、幅30m、長さ40m位の規模。この沢型は向きによって微妙に斜度が違い、特に急な部分は木も薄く雪崩が起き易いようになっている。同一斜面でも斜度や方向によって慎重に雪質を確かめなければならない。今回の弱層の強度は肩位であった。

⑩ 1992 2/7~2/10 渡部P (32111) ニセコ  
点発生?表層雪崩 誘発 規模小 アイゼン歩行中

2/8 チセ東面

朝チセヌプリスキー場で弱テをした際今までになくいやな感じがした。しかし、チセを登るときに判断できると考え進めた。ピークから下りだし斜度が急になるところから、突然雪質が変わり超ズボズボになる。弱テのことを思い出し、まずいと思った瞬間、SLのところから厚さ50cm位の表層が雪崩れた。

⑪ 1990 1/7~1/13 栗崎P (4311) 大雪 トムラウシ、化雲  
面発生表層雪崩 誘発 規模小 シール(スキー?)歩行中

1/11 五色尾根へ向かう途中c1284東の沢源頭の池の上の小さな丘(樹林内)

Mトップで歩行中、Mが丘をトラバースして苦労しているのでLがその上1.5m位を行くと、雪

面にひびが入る。早く行くように行った瞬間に、15m×3m位で深さ15cmが板状に雪崩、M2人は1~2m位流される。もともと高さもなくすぐ緩くなっている斜面なので危なくはなかったのだが、樹林内での雪崩に対する注意が足りなかった。

⑫ 1988 3/30~4/7 川崎P (43222) カムエク  
点発生表層雪崩 誘発 規模中 スキー中

4/1 神威岳北面

やや急だが雪がよさそうなのでスキーで入ると、2曲げ目に表層雪崩を起こす。幅5m、谷底まで落ちていった。雪面に触ってみると固い雪の上にタンポポの綿毛のような新雪がふんわり乗っていた。

⑬ 1988 3/3~3/5 鍛冶P (22113) 積丹岳  
点発生表層雪崩 誘発 規模小 スキー中

3/4 c826 ポコの南側

沢に向かって空身でスキーをしているとき、c700付近で吉村(M)が転倒、表層約10cmが幅5m、長さ20mにわたって流れる。吉村は5m程ズルズルと流され自然に止まる。その後滑ってきた鳥羽山(M)も転倒し同じような感じで流される。

現場はシャンツェの急なところ位の斜度で木はまばらに生えている。南向きの斜面で前日に降った雪がゆるんでいたと思われる。

⑭★1986 3/16~3/24 一迫P (7311) 北日高  
全層?~面発生表層雪崩 誘発 規模大 アイゼン歩行中

3/24 エサオマン、J.Pを越えたc1820

SLは先行のトレースがあったのでその上を歩いており、以下3人もそれに従って歩いていた。するとバーンという音とともに3番目を歩いていた菅野とラストのLの右横15~20cmにクラックが幅3~4mにわたって入り、ゆっくりと転がるように落ちていき、その幅に沿って全層雪崩が発生したと思われる(危険なので確認はできなかった)。またそれが引き金となって両サイドで表層雪崩を誘発したようで、雪煙を上げながらあっという間に10の沢出合くらいまで落ちていった。後で安全なところから見ると小さな木は雪崩の通り道に沿ってすべて倒されていたようだ。

⑮☆1985 4/2~4/6 滝、松村P (4433111111) 大雪 ピウケナイ周辺  
面発生表層雪崩 誘発? 規模中 雪洞

4/3 虫の沢の二重雪庇下

二重雪庇の下だけがものすごいブリザードとなっていた。雪庇のスケールはかなり大きなものだったので、比布と鋸のコルよりも雪洞を掘ることにした。雪洞は7名用、4名用の2つに分け作業に入る。17:30に完成し、大きい方に7人、小さいほうに1人が入っていたとき(18:00頃)、下段の雪庇側面がブロック上に崩れた。雪崩の大きさは幅20~30m、長さ40~50m、厚さ60~70cmと思われた。外にいた3人が流されたが2人は埋まらず、1人が腰位まで埋まったが脱出できた。雪洞には異常はなく、外にあった4つのザックと全員のスキーが流された。ストック2本は発見できず。

⑯☆1985 3/22~3/29 松村P (4322) 中部日高  
面発生?表層雪崩 誘発 規模中 スキー下降中

3/29 コイカク夏尾根東斜面 c1100~c1150位

尾根上を下ろうとするもブッシュが多く、滑りやすい右側斜面に入り込んでしまう。Lがc100程下ると、背後から表層の雪が崩れてきて背中を押し、転倒。下の木にスキーがからまり、体が下になった。Mに助けてもらいザックをおろし、2m程上に落としたメガネを取ろうとすると、上からまた表層が流れてきてザックが流される。ザックは発見できず。

⑰☆1984 3/26~4/3 青黄P (43111) 北々日高 日勝峠~ピパイロ  
面発生?表層雪崩 誘発 規模中 雪洞

3/27 ウェンザル南コル

コルの東側に雪洞を掘ろうとしたところ、雪庇を落とし雪崩を誘発。スキー10本、ストック8本が流される。幅15m長さ70m位で板状。50m下が樹林帯であったので雪崩は止まりスキー、ストックは回収できた。

3/26、3/27ともに地吹雪のために雪庇が発達した。隠れ雪庇となっていたところに雪洞を掘ろうとしてしまったため、雪崩を誘発したと思われる。

⑩☆1983 3/16~3/17 小塚P (43111) 十勝  
面発生表層雪崩 誘発 規模中 ツボ足歩行中

3/11 美瑛岳下 c1040

天場前のコンタ差 80m位の斜面でスキー。登り返しのとき表層雪崩を起こす。こけたので4名が腰まで埋まる。デブリの厚さは50cm。前日までの強風が斜面上部に吹き溜まりを作り、そこに立ち入ったために雪崩れたと思われる。

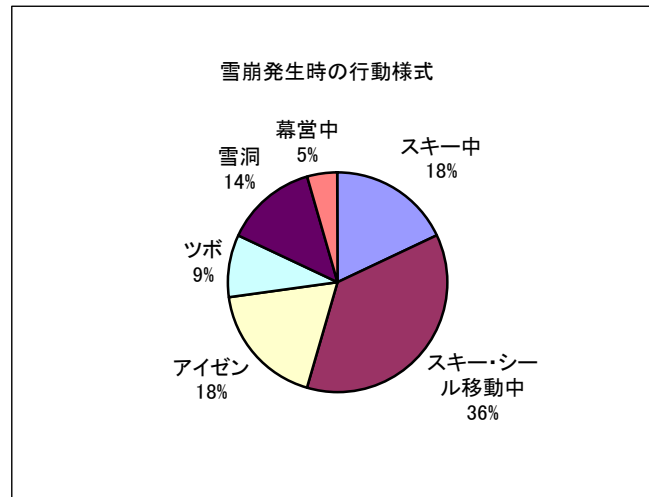
⑨☆1981 1/1~1/3 小田切P (4????) 東大雪 石狩、ニペ  
面発生?表層雪崩 誘発? 規模? 幕営中

1/2 十石峠南東尾根 c1050 付近

c1050 付近にテントサイトを切って張ることにする。あと30分程で尾根上に上がれそうだが、天気図も取りたかった。天場付近は木もありブッシュもいづらか出ているので雪崩の危険はないと判断した。夜2:30頃小規模雪崩発生、ウィンパーをつぶされる。Lは他のメンバーとコンタクトはとれたがSLの声が遠く、かなり雪に覆われている様子。M3人はすぐにテントから出られたがL、SLは移動することが不可能。L、SLはテントを切る。靴をはき、シュラフ、シュラカバを取りだし、ラテルネをつけてその場所を離れ、テントサイトから20m程のやや木の多いと思われるところでビバーク。朝まで待つ。

今回の雪崩はある程度の斜面に、前日までよい天気が続きかたくなっていたところに新雪が積もりあまりなじんでいなかったところを人為的に斜面を切ったため、その上の雪が崩れてきたものと思われる。よほどのことがない限り、斜面を切ってテントを張ることは避けねばならない。

## 分析



- スキーをしようというときだけではなくルート上での遭遇が多い。
- 稜線上で雪庇を落とすなどして雪崩を誘発する例がいくつかあり、非常に規模が大きく巻きこまれたらまず助からない（上の例以外にも雪崩を誘発してはいないが雪庇を落とす、踏み抜くといったケースはいくつかあった）。アイゼン歩行中は要注意。
- 雪洞は要注意。
- ほとんど表層雪崩。
- 間接的なものも含めればすべて誘発。
- 発生時刻はバラバラ。
- 正月よりも春に多い。
- 原因はすべて雪崩に対する知識と注意の不足。

盤の沢の事故以来、山スキー部は山での死者を出していません。しかし雪崩に関するものだけでこれだけの例があり、なかには死亡事故につながってもおかしくないような例もたくさんあります。これを見ると山スキー部でしばらく死亡事故が起こっていないのは単に運がいいだけではないのかわざら得ません。過去の遭遇例を見て雪崩の危険は決して自分と無関係ではないことを忘れずに、これからの冬山に臨んでいきましょう。

過去 20 年分をできるだけ調べたつもりですが、まれもあると思います。またそれぞれの事例について反省点などを細かく考察してはいないのでそれは自分で考えてください。

### 山系 3 団体等の主な雪崩死亡事故

1994	ワンゲル	十勝OP尾根	1名死亡
1985	ワンゲル	奥手稲山	1名死亡
1974	エレガントスキー	無意根山～長尾山	2名死亡
1972	山スキー	旭岳盤の沢	5名死亡
1965	山岳	札内川10の沢	6名死亡
1940	山岳	コイカクシュ札内	8名死亡
1938	山岳	十勝上ホロカメットク山	2名死亡